



11月号

平成7年11月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

ふわふわ布団のその中で
ぐっすり寝ていた君たちは

お母さんのようなお日さまに
暖かい日差しを注がれて

お父さんのようなお空から
おいしい水を与えられ
いつの間にか大きくなった

小さくたっていいじゃない
細くたっていいじゃない
おんなじなんてつまんない
みんな違っておもしろい

もう目をさましていいんだよ
心配しなくていいんだよ
明るい世界へ出ておいで
おっきな顔して出ておいで

〈土の中の芋たちへ〉



(ふたりは仲良し — 広幡幼稚園)

私にとって今でも悔しく想い出されるのは、一生懸命努力したにも拘らず小学校五・六年の通知表は六学期間、「優」が一つであとは全部「良」であり、科目も同じであったことである。もつとも、体が弱く内向的であり、先生に余りよく思われていなかっただのかも知れない。

日本の教育制度には欠点が多いが、



なかでもこの相対評価は最も悪いものと考えている。人間は誰でも努力した時、正しく評価されると、さらに一層頑張ろうという気をおこす。やってもやっても認められなければ嫌気がさし、投げ出してしまう。この点、絶対評価では努力の成果が正直に現れる。

息子も中学卒業前までは、所謂落

ちこぼれであった。教師にも親にも意味なく反抗し、いつもイライラしていた。私が米国へ留学した折、家族を連れていったので、当然、息子は米国の小学校へ通った。一か月もすると英語を話し、友人も出来た。数学が最も得意であり、「A」を貰っていた。どんどん「A」の数も増えていった。帰国して、日本の学校

—教育随想—

相対評価と絶対評価



県立愛知病院長

木戸長一郎

へ行くようになると段々元気がなくなつたが、登校拒否はしなかつた。しかし、鬱々としている気持ちが親にも分かつた。中学を卒業して私立高校に合格したものの、そこへは行かず、自分で国際学校へ進んだ。二年の後、カリフォルニアの田舎町の高校へ移った。そして、有名な大学へ入学し、卒業した。随分辛いこと

もあつたと思うが、自信と誇りを取り戻した。

娘も兄と同じ道を辿つた。彼女は中学を出るや四か月、英語を学んで単身でペンシルベニアの高校に行った。十五歳であつた。彼女も州立大学を卒業した。米国では大学への入学は内申書と校長の推薦状のみで、一定の成績であれば可能である。しかし、卒業は決して容易ではない。二人ともよく頑張つたと思うが、努力すればするほど認められる絶対評価だったから素直に伸びていったのだと思う。

親子の断絶が問題になっている。私たちは子供たちの米国留学中、せつせと手紙のやり取りをした。何度も何度も読み返すことで親子の理解が深まり、話す時にみられる感情は抑えこまれる。子供たちの手紙は中学卒の知識であるから誤字や当て字が多かつた。それを全部直して送り返したため、帰国してからは正しい日本語を使える様になつた。これなども「可愛い子には旅をさせよ」の諺通りであつた。

「教育とは自立させ誉めること」であると痛切に感じるこのごろである。
(きど ちょういちろう)



期待される

「ボランテア教育」

岡崎小学校長

牧 太刀彌

子供たちは、通学路の「おはよう清掃」を続けている。土曜日の登校時に、通学路の空き缶や危険物などをビニル袋に入れて拾い集めてくる。日常生活のなかで、よしや些細なことであれ、自ら気づいて行動する奉仕の心を大切に育てたいのである。市内では、すでに全校体制で、あるいは地域ごとに、奉仕の実践活動を永年継続し、表彰の栄に浴しているところも多い。中学生主張コンクールでは、ボランテア体験が感動的に語られ、共感を呼んでいる。本年は、「ボランテア元年」「ボランテア革命の年」とも呼ばれていくという。あの阪神大震災に大変多くの人々がボランテアとして積極的に参加し活躍した。しかも、多くの若者が意欲的に登場した。この

ふるさとシリーズ

この人に聞く



スノーボード日本一

町田 祥子 氏

今年三月末に新潟でスノーボードの全日本選手権大会が行われた。その大回戦で優勝した町田さんを市内のスーツ店に訪ねた。

「小さいころは、スポーツらしいスポーツはやっていませんでした。ただ、スキーに連れていってもらったときのスピード感が大好きでした。」

その町田さんが、スノーボードを始めたのは、大学二年生の時。友人から勧められ、おもしろ半分始めたのだが、それ以後スノーボードに魅せられてしまった。

スノーボード競技は二種類あり、フリースタイルとアルペンスタイル。町田さんが行っているのは、アルペンスタイルのジャイアントスラローム（大回戦）だ。わずか三年で全日本優勝という偉業をなし遂げた裏には、相当の練習があつたようだ。

「私は、のめり込むタイプなんです。でも、スノーボードの楽しさが分かつたような気がします。」

スノーボードの魅力を伺うと、「スキーとは比べものにならないくらいスピード感があるんです。もちろんスキーのほうが速いのですが、体感速度が全く違います。また、スノーボードは若い人が自分を表現できるスポーツです。とっつきやすく、滑り方や服装など自分らしさを出すことができます。それに、大自然にふれることができます。解放感、他では味わえません。」

と語られた。冬はスキー場にこもってスノーボードに熱中するという町田さんに、今後の夢や目標をお聞きした。

「自分の滑りを鍛えたいです。そして、世界にチャレンジしてみたいです。十一月からヨーロッパで行われるワールドカップに挑戦するつもりです。」

つもりです。」

現在、町田さんはナショナルチームの一員に選ばれ、長野オリンピックに向けて頑張っている。

「どこかの小学校で、夜使わせてもらえる体育館はありませんか。コートから陸上トレーニングのメニューをもらっているんです。」

スポーツジムに通い、さらに自己を高めるために夜のトレーニングも欠かさない。自分の夢に向けて邁進している姿に若いエネルギーを感じた。

氏 名 まちだ よしこ
生年月日 昭和四十六年十一月六日
住 所 竜美東三十二一九



ことがボランティアのイメージを変え、評価されたようである。私たちは、義援金を送ってそれですべてよしとしていたのではなかったか。

私は、市のボランティアセンター運営委員会に参加する機会があつた。本市では、すでに十年ほど前から永続的に「誰もが安心して暮らせる福祉ボランティアの街『岡崎』づくり運動」を推進し、様々な啓蒙活動が着々となされていて驚いた。

福祉教育推進事業として福祉協力校・福祉推進校を指定し、先進的な啓蒙活動の輪を広げようとしている。学校での福祉教育に対し、強い期待・要望が寄せられていることを知った。

福祉に関する教育は指定校だけのものではない。幸い、福祉読本『ともに生きる』がある。いずれの学校も有効に活用したい。

急速に進んでいる高齢化社会、福祉社会を想定するとき、「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」が重視される。そのために、他人を思いやる心や感謝する心、勤労する楽しさや奉仕する喜びなどを培う具体的な体験活動の在り方が真剣に問い直されねばならない。

社会は激変していく。学校も、社会のニーズにぜひ心したい。



気軽に楽しめるレク・スポーツ

「生涯学習」が叫ばれて久しいが、最近、スポーツについても、生涯を通じてスポーツを楽しみたいという気運が高まってきている。総理府が二十歳以上の大人を対象に行ったスポーツ人口調査では、参加人口は六十六パーセントであり、昭和三十一年代初めが十四パーセントだったのに比べると、大きな伸び率になっている。そんな中で、今、レクリエーション・スポーツが大きな関心を集めている。

このスポーツは、

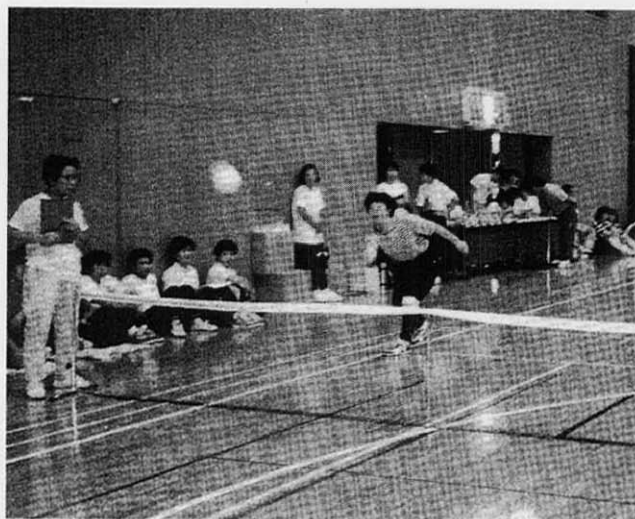
- ① 遊戯としての本性を保持している。
- ② 体力差や技術差が競技の阻害要因とならない。

③ 気軽にゲーム的楽しさや愉快さを味わうことができる。

という特徴がある。

岡崎市でも、今年の六月、気軽に楽しめる市民のレクリエーション・スポーツ普及を目指し、初の「岡崎市スポーツ・レクリエーション祭」が行われた。種目は、ユニバーサルホッケー、ソフトミニバレーボール、インディアカ、グラウンドゴルフ、ペタンク、ウォークラリー、ニユースポーツ（タスポニーなど）体験コーナーの七種目である。

学校でも、これらのスポーツを楽しむ人を見かけることが多くなってきた。これからますます盛んになってくるスポーツであろう。



▲タスポニー スポンジボールをテニスのように



▲ウォークラリー 大声を競うのもスポーツ



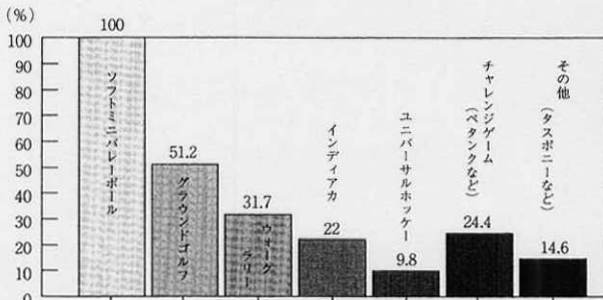
▲ペタンク フランス風のカッチン玉



▲グラウンドゴルフ 広場で手軽にできるミニゴルフ



▲インディアカ 羽根付きバレーボール



岡崎市学区普及状況 (平成5年9月調査)



▲ユニバーサルホッケー 安全で楽しい室内ホッケー



▲ソフトミニバレーボール 柔らかくて大きいバレーボール



走り続けるA子

岩津中学校

山本 和代

陸上部の顧問になって二年になる。最初の頃、陸上の経験のない私にとって、部活の時間は憂うつでならなかった。そんな私を夢中にさせたのがA子の存在である。

A子の種目は八百米で、一年生にして入賞を果たした期待の選手だった。そんなA子をプレッシャーに感じたこともあったが、決して手を抜くこと無く練習するA子の姿にいつからか私のめり込んでいた。しかし、A子の記録は上位入賞しているものの、思うように伸びないでいた。A子のあせる気持ちが伝わってくるようだった。そんな時でも、A子は自分からきつい練習を望んだ。真冬の厳しい寒さの中、駅伝の男子にまじり

一人黙々と走った。長い冬だった。

三年生になって部活もあと一か月で終わりという頃、記録が伸び始めた。そして七月三十日、県大会。私のアドバイスにうなずくA子から氣迫が伝わってくる。四十度近い猛暑の中、A子は力をふり絞りゴールを目指した。タイムは二分十七秒一五。ついに全国大会の切符を手にした。

この二年間、無我夢中の毎日だったが、A子の努力からたくさんのかっこいいことを学んだ。今、新チームで活動しているが、私も生徒も、A子を目標に頑張っている。A子はいつまでもみんなの心の中に走り続けている。



師弟同行

穏やかな墨絵

城北中学校

山口 泰代

微妙な濃淡の美しい墨絵。

男川小での郷土誌作りのことでした。さらっと描かれた穏やかな感じの挿し絵は、まさに永田教頭先生のイメージとなって心に残っています。私は、専門は美術とはいえ、多才な先生の一面にも及ばないと感じました。

また、「この行事、昨年はどうしていただろう」と、分からない時は、皆、永田先生に聞いていました。先生は、常に資料をきちんと整理し、いつでも活用できるようにしてありました。それは、私の最も苦手とする点で、見習って余りあるところでした。学校教育を退かれた後、世



界子ども美術博物館に勤められました。

ある朝、テレビ放送で、美術の造形教室が紹介されました。そこには、子供たちを穏やかな笑顔で教えてみえる永田先生の姿があり、なつかしく、うれしく思いました。

それから数年が過ぎましたが、今もお元気で、美しい絵や書をお楽しみのことと想像しています。

すきな絵

元男川小学校教頭

永田 績

先生が「泰ちゃん」と呼ばれていた男川のころのできごとで、鮮烈な印象が今も残っています。

ある土曜日の午後、誰もいなくなった職員室へうれしそうな顔で外出から帰ってこ

れた先生。そのころ、あるギャラリーで有名な絵の展覧会がありましたので、それをきっかけに「〇〇の展覧会を見てこられたかね」と尋ねると、「はい。今、見てきました。いい絵があったので買っちゃった。ウフフ」と。しかも二十万、三十万。

聞いてびっくり、ショックでした。展覧会があることを知っていても見に行かず、欲しい書画があっても代金はいたいって買ったこともない私。着物も欲しい年ごろなのにそれを買わずに、好きな絵を買うなんて。羨ましい。

先生は図工科主任として、男川小をリードしてこられたお方。名ばかりでなく、心から美術を愛する真摯な情熱家なんだと知り、大いに敬服した次第であります。

「私も腕を磨いて先生のようにならう」とと絵のかけ人のアルバムに書いてくださった先生。陰ながらも御精進をお祈りしています。

お知らせ



◆岡崎市教育委員会名簿

- 委員長 太田 清美
- 同職務代理者 杉山 光
- 委員 内藤 美智子
- 委員 杉浦 壽康
- 教育長 伊豫田 壽夫

◆全国中学校体育大会

- 準優勝
- 相撲個人 東海中 片桐 裕策

出場者

- 相撲団体 東海中学校
- バレーボール女子 矢作北中学校
- バスケットボール男子 葵中学校
- 剣道男子個人 東海中 林 豊大

陸上男子四百M

矢作中 鈴木 泰史

陸上男子走高跳

矢北中 島田 倫之

陸上男子走高跳

六北中 畠山 真吾

陸上男子走幅跳・三種B

竜南中 金澤 俊彦

陸上女子八百M

岩津中 川本 綾香

水泳男子四百MメドレーR

矢作中 尾崎・島田 長坂・高田

体操女子個人総合

北川・豊福 竜南中 中瀬 直子

体操女子個人総合

竜海中 内藤 綾子

◆明るい選挙啓発ポスター

特選

男川小 六年 香村 孝之

細川小 六年 近藤 久王

矢北小 六年 刃武司祐子

南中 三年 有馬 理恵

竜海中 三年 犬塚 亜代

城北中 一年 白井 順也

◆愛知県吹奏楽コンクール

金賞

六ツ美北中学校

銀賞

葵中学校

小編成の部 矢作中学校

銅賞

小編成の部 美川中学校

◆東海吹奏楽コンクール

金賞(小編成の部) 六ツ美北中学校

◆中部日本吹奏楽コンクール

愛知県大会

優秀賞

大編成の部 竜海中学校

六ツ美北中学校

小編成の部 美川中学校

矢作中学校

大編成の部で優秀賞の竜海中学校は、本大会に出場

優良賞

大編成の部 葵中学校

城北中学校

東海中学校

岩津中学校

六ツ美中学校

竜南中学校

◆フードメッセ・イン岡崎

料理コンテスト

市長賞 葵中三年 千葉 麻弓

市議会議長賞 葵中三年 石川 華子

教育長賞 北中一年 多田 勇輝

商工会議所会頭賞

葵中三年 高橋恵美子

観光協会長賞

矢北中二年 末藤 教代

岡崎の名物料理を考える会会長賞

葵中二年 桑原あやめ

県調理師会長賞

葵中三年 三矢 有香

岡崎調理師会長賞

葵中三年 蟹江 綾子

フードメッセグループ賞 六北小 六年 林 雅之

笹山 直樹

まるや八丁味噌賞

矢北中二年 小田 健介

カクキュー八丁味噌賞

城北中三年 伊豫田祥浩

中京テレビ放送賞

葵中三年 植田 充郎

中部日本放送賞

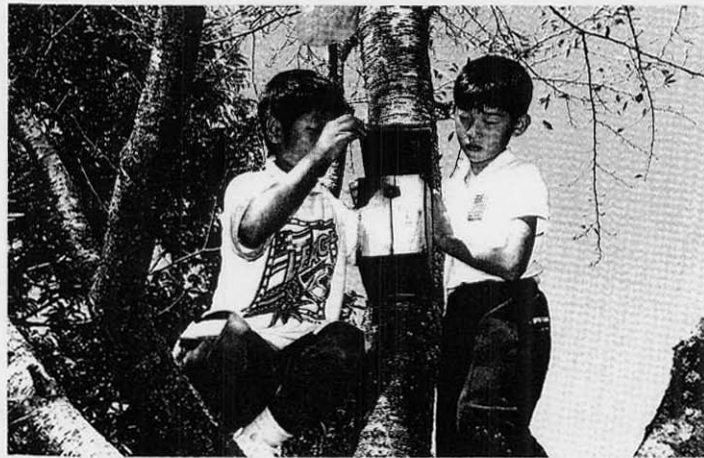
六北小 六年 小嶋真理子

名古屋テレビ賞

矢北中二年 矢田あずみ



愛鳥クラブが中心になって、巣箱の設置や調査、冬期の給餌活動、傷ついた野鳥の保護などを行っている。





矢作北小蔵

あ うん き ばな
阿 畔 木 鼻

「木鼻^{きばな}」とは、柱の上部を
なく貫材の端が柱から突出し
た部分のことで、神社の拝殿
などによく見られる。

明治十三年三月、碧海郡公
立長瀬学校が、長瀬八幡宮東
隣に、芝居小屋の資材を使用
して建てられた。その玄関の
木鼻として、前面には阿畔の
獅子、側面には同じく阿畔の
竜が据えつけられた。いずれ
も、檜材の一木造りの見事な
彫刻である。おそらく、学校
の安全と隆盛を祈願したもの
であろう。

明治三十五年、就業年限が
四年になり、児童数が増加し
たため、長瀬学校から碧海郡
長瀬村立長瀬尋常小学校とし
て移転新築される。その際、
阿畔木鼻が保存のために切り
取られた。

現存する木鼻は、長く風雨
にさらされて木目全体が黒ず
んでいる。学校創設から今日
まで、時代の変遷を見つめ、
数多くの子供たちを見守り続
けてきた歴史の生き証人とし
て矢作北小学校の郷土宝物庫
に眠っている。

- ・表紙写真
- ・表紙詩
- ・カット

広幡幼稚園
広幡幼稚園
矢作北中

山中須子
小嶋由美
長坂有里乃

この本を

- * 生死半半 淀川 長治 1000円
- 幻冬舎
- * 月からのシグナル 根本 順吉 1100円
- 筑摩書房
- * 生きるための学校 鎌田 慧 1400円
- PHP研究所
- * いじめ時代の子どもたちへ 芹沢 俊介・藤井 東 1400円
- 新潮社

- * 遊心譜 宮崎 市定 1950円
- 中央公論社

「九十三歳にしてなお文辞に一片の老いの影もない碩学のエッセイ集」と、短評にあった。本書は、珠玉の文集である。「事は百般におよぶと言ってもよいが、その洞察の深さ識見の高さによって、私たちは、さまざま、よき教えを受ける」とも。学問論、教育論は警拔、学者への追悼文も名手。骨のある文体に、読み手にも心を遊ばせる充実感がつたわる。悠々自適、著者の歩まれた学究生活が彷彿とする。

思い余りて言葉足らず。殊勝な気持ちで歳時記と向き合う。それにしても、秋の季語の多さにあらためて驚かされる。古来、日本人に最も好まれる季節であることの証明でもあろう。秋色深まりゆく中、教室の窓からは美しい合唱が流れてくる。



市民に少しずつ浸透してきたレク・スポーツ。その起源はいろいろな国の路地裏での遊びらしい。昔は、近所の遊び仲間と空き地などでメンコやビー玉をしながら暗くなるまで遊んだものだ。レク・スポーツには気軽さと同時に、どこか懐かしさも感じる。



アルペン競技と言えばスキーを思い出すが、スノーボードにも滑降や大回転があることに驚かされた。三年後に開催される長野オリンピックでは正式種目となるだろう。大回転で活躍する町田さんを、日の丸の旗を振りながら応援したいと思った。

科「秋を見つめよう」の一コマである。自然と触れ合うことの少ない子ども、このときばかりは目を輝かせ、生き生きと活動する。やはり、自然は子供にとって一番の遊び相手なのだ。